

産業集積の持続・変革における キープレイヤーに関する考察

— 中国無錫市の電動自転車産業集積の事例分析を通して —

山梨学院大学 経営学部 専任講師

蔣 辛未

関西大学 商学部 教授

崔 相鐵

キーワード

産業集積の持続と変革, リンケージ企業, バリューネットワーク, 商業論, 商人的調整者

産業集積には製品と同様にライフサイクルがある。衰退傾向に歯止めがかからないという厳しい状況に直面している日本の各地に散在する多くの伝統的産業集積が、待ち変えている同集積のライフサイクル上の縮小・衰退期の桎梏から抜け出すためには、従来の「地域完結型」視点とは異なる、新たな視点、端的に地理的・空間的制約を乗り越え、産業集積の持続的発展を図っていく視点が求められる。本稿では、この「地理的制約を超える」視点を発展させ、産業集積持続・進化のための新たなパラダイムの必要性を主張する。

最初に産業集積の持続について関心を寄せたのが伊丹他（1998）であり、中小企業の集積では継続性が生まれる大きな理由の一つとしては集積内部と集積外部のマーケット情報とをつなぐ機能を果たしているリンケージ企業が存在すると指摘した。伊丹他（1998）に続き、高橋（2012）と田中（2018）などは、ソーシャル・キャピタル論に基づき、産業集積の持続におけるリンケージ企業の役割について議論している。しかしながら、産業集積の持続においてリンケージ企業の機能と重要性は言及されたが、地域性や地域コミュニティを暗黙の前提としてリンケージ企業の議論を展開しているため、それによる地理的制約を超える可能性に関しては無頓着である。

そこで本稿では、地域性に拘らない持続の可能性を探るために、まず商業論の知見から産業集積の持続に取り組むべき主役を「商人的調整者」と定義し、「商人的調整者」がもつ地域性に拘らない特質について説明する。次に

Christensen（1997）が提唱したバリューネットワーク理論を用いて産業集積の持続が困難となる真因を究明し、その現象を「産業集積の持続のジレンマ」と定義する。最後に、産業集積の持続のジレンマを乗り越えるために、商人的調整者が空間を超える論理として、西口・辻田（2016）が提唱したコミュニティ・キャピタル理論を導入した。その上で、明らかにされたリンケージ企業と商人的調整を中心とするそれぞれの持続・進化のパターンを整理し、成熟期へ移行する産業集積の持続の仮説的プロセスモデルを提示した。それから、日本において、このような新たなパラダイムに即した産業集積の事例が希である現実に鑑み、中国無錫市の電動自転車産業集積という先端的な事例を取り上げ、提示した仮説的プロセスモデルの有効性について考察した。

結論として、集積内で軛になったバリューネットワークを変えて持続・進化するという地域重視のリンケージ企業を中心とする持続のパターンに対し、地域性に拘らない商人的調整者を中心とする産業集積の持続のパターンは①軛になった既存のバリューネットワークからの脱出と、②集積外で新しいバリューネットワークの創成と、③集積外を中心とする進化という三つの段階が存在することが分かった。本稿では、軛になったバリューネットワークから脱出するための機能を商人的調整者の「脱出機能」と、集積外で新しいバリューネットワークの創成に尽力するための機能を商人的調整者の「創成機能」と呼び、こうした脱出と創成機能こそが産業集積の持続における商人的調整が果たしている重要な役割である。

本稿の発見物として、産業集積の持続において商人的調整者はリンケージ企業と異なり、単純に商業の需給調整を行うだけでなく、新しい集積地の潜在力を発掘し、それと新たなマーケットとを結びつける変革力を持っていることである。この新しい商人的調整者のことを「商人的革新者」と呼ぶべきだろう。創成機能と脱出機能を併せ持つことになってはじめて、新たな商人的調整者、すなわち商人的革新者の誕生が告げられることになるのである。

主要引用文献

石原武政 (2002). 「小売商業集積との比較における産業集積の組織特性」『経営研究』52 (4), 43-62.

伊丹敬之・松島茂・橋川武郎編 (1998). 『産業集積の本質—柔軟な分業・集積の条件』有斐閣

西口敏宏・辻田素子 (2016). 『コミュニティー・キャピタル—中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界』有斐閣

Christensen, C. M. (1997). *The Innovator's Dilemma*. Harvard Business Press.

図-1 商人的調整者を中心とする産業集積の変革のプロセスモデル

